

2 園路等

■基本的な考え方■

各施設を円滑に利用するために、高齢者や身体障害者等の利用に配慮した出入口と園内の主要な施設を結ぶ園路等を確保する。

整備基準

2 園路その他これに類するもの(以下「園路等」という。)

1の項(出入口)に定める構造の出入口に通ずる車いす使用者が利用する園路等のうち主要な園路においては、次に定める構造とすること。

- (1) 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げる。
- (2) 横断こう配は、水こう配程度とし、かつ、平坦とすること。
- (3) 幅員は、内のりを1.8メートル以上とすること。
- (4) 排水溝を設ける場合においては、車いすのキャスター、松葉杖等が落ち込まない構造の溝ぶたを設けること。
- (5) 必要に応じて、連続した手すりを設けること。
- (6) 1〔出入口〕に定める構造の出入口に接する部分のこう配は12分の1以下とし、ベンチ及び野外卓に接する部分は、水平とすること。
- (7) 段を設ける場合においては、ハの表〔道路〕2の項〔立体横断橋及び地下横断歩道〕(2)及び(3)〔工及びキを除く。〕に定める構造及び次に定める構造とすること。
 - ア 必要に応じて、両側に連続した手すりを設けること。
 - イ 路面、けあげ及び段鼻は、原則として識別しやすいものとする。
- (8) 段の上端及び下端に近接する園路等及び踊場の部分には、原則として点状ブロックを敷設すること。
- (9) 高低差がある場合には、次に定める構造の傾斜路及び踊場を設けること。
 - ア 幅は、内のりを1.5メートル(段を併設する場合にあっては、1.2メートル)以上とすること。
 - イ こう配は、15分の1を超えないこと。
 - ウ 高さが75センチメートルを超える傾斜路にあっては、高さ75センチメートル以内ごとに踏幅1.5メートル以上の踊場を設けること。
 - エ 傾斜路が同一平面で交差し、又は接続する場合においては、当該交差又は接続する部分に踏幅1.5メートル以上の踊場を設けること。
 - オ 必要に応じて、両側に連続した手すりを設けること。
 - カ 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げる。
 - キ 傾斜路は、その踊場及び当該傾斜路に接する園路等の色と明度の差の大きい色の使用その他の方法により、原則として傾斜路が識別しやすい構造とすること。
 - ク 縁は、高さ5センチメートル以上の立ち上がりの設置その他の方法により身体障害者等が転落することを防止する構造とすること。
 - ケ 傾斜路の上端及び下端に近接する園路等及び踊場の部分には、原則として点状ブロックを敷設すること。

整備基準の解説

●整備の対象

車いす使用者が利用する園路のうち主要な園路を整備する。

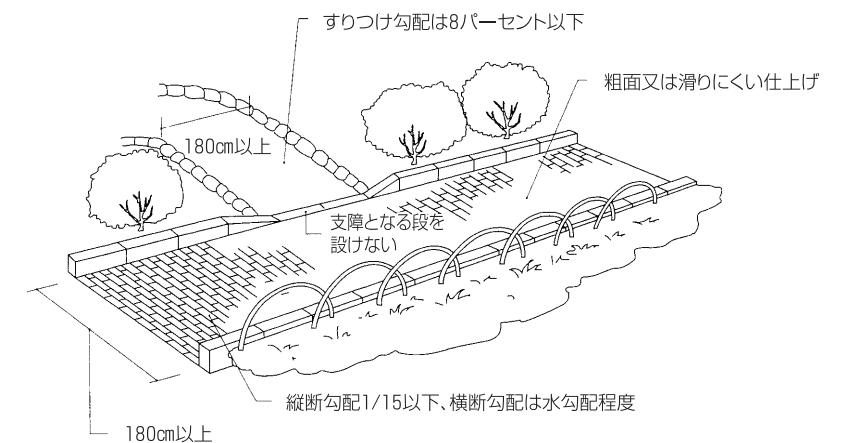
○主要な園路は、1の項に定める出入口から①園内の主要な施設を結ぶ経路、②園内での催し等が行われる場所までの経路、③園内散策のための回遊園路等をいう。

項 目	解 説
(3) 幅	○園路等の内のり幅180cmは、車いす同士がすれ違いやすい寸法。
(7) 段の幅	○段の内のりの幅150cmは、松葉杖利用者が円滑に上下できる寸法。
(9) ア幅	○傾斜路及び踊場の内のり幅150cmは、人と車いすがすれ違い、かつ、車いすが回転できる寸法。 傾斜路及び踊場の内のり幅120cmは、傾斜路を車いすが通過しやすく、人が横向きになれば車いすとすれ違える寸法。

配慮事項

項 目	解 説
(7) ア手すり	○「配慮事項③手すり(P.88)」参照。
園路の構造	○原則として、砂利敷きとしない。

主要な園路の整備例



主要な園路に設けられる階段・傾斜路の整備例

